

ほっかいどう きたとうほく じょうもん いせきぐん
北海道・北東北の縄文遺跡群

せ かい い ぜん
世界遺産になった!

是川石器 時代遺跡

これかわせつきじだい いせき



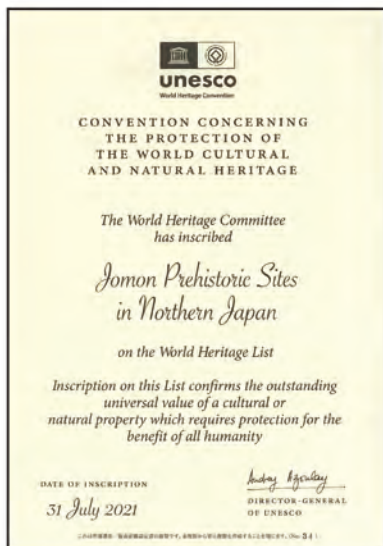
01

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

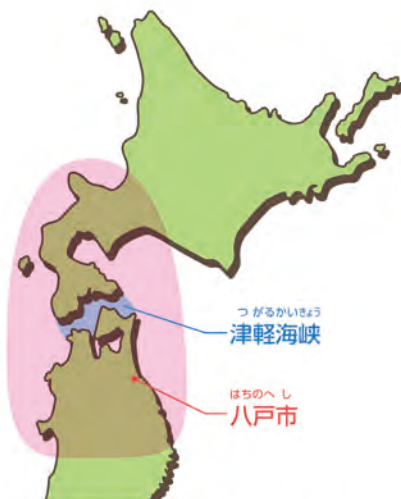
みなさんは世界遺産のことを知っていますか？

世界遺産は、地球の成り立ちと私たち人類の営みによって生まれた、かけがえのない宝物のことです。

2021年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」(以下、縄文遺跡群)が世界遺産になることが決まりました。



ユネスコから届いた認定証(レプリカ)



北海道・北東北の縄文遺跡群のはん囲



「縄文時代」は、日本だけが使っている時代の呼び方。だから英語でも「Jomon」なんだるん！

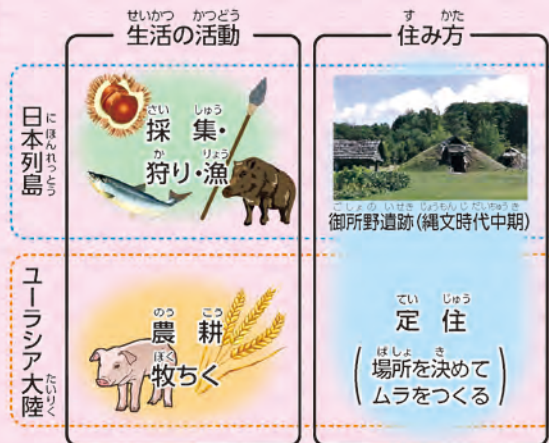
これはわじもんかんは川縄文館マスコットキャラクターいのるん

北海道南西部から東北北部は、日本列島のなかでも縄文遺跡が多い地域です。この地域の縄文人は、津軽海峡をわたって交流を深めていました。

この地域の縄文人の暮らしや文化がよくわかる17の遺跡が世界遺産になりました。

世界遺産になった2つの理由！?

ユーラシア大陸では定住とともに、ムギやイネの栽培が始まりましたが、日本列島の縄文時代では採集・狩り・漁を行い、定住する暮らしが続いたところに大きなちがいがあります。



生活と住み方のちがいが

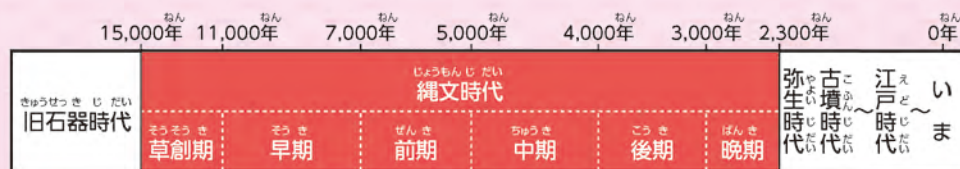
POINT 1

採集・狩り・漁をしながら定住し、いろいろなマツリを行う暮らしが1万年以上続いたこと。

POINT 2

気候の変化にも対応して、上手に自然のめぐみを使い、いろいろな場所にムラをつくったこと。

縄文時代は1万年以上続いて、日本の歴史のなかでも、とっても長いんだるん！すごいるん!!



日本の歴史のものさし

縄文遺跡群の四つの特ちょう！

01

自然を上手に利用した生活をしていました

縄文人は、食べものに困らないように季節ごとにとれる物をよく知り、自然を上手に利用していました。そのおかげで1万年以上にわたって、木の実の採集や漁、狩りをして定住する暮らしを続けることができました。



遺跡から出土したクリ(上)とトチの実(下)

02

ムラのなかでマツリをしていたと考えられている



縄文人は、祖先や自然を大切にする、マツリを行っていたと考えられています。

縄文遺跡からは、マツリの場になったと考えられる貝塚(動物骨や貝などの捨て場)やストーンサークル(環状列石)が見つかるほか、土偶などのマツリに使われるいろいろな道具も多く見つかります。

貝塚でみつかった動物に対するマツリの場
(北海道北黄金貝塚 縄文時代前期)

03

暮らす場所に合わせて生活を工夫していた



縄文人は、食べものを集めやすい場所(山や川、海の近くなど)にムラをつくりました。また、それぞれの場所にに合わせて、技術や道具を生み出していました。

貝の採集や漁の想像図(左)
(長七谷地貝塚 縄文時代早期)

クリの実の採集の想像図(右)
(一王寺遺跡 縄文時代中期)

04

縄文時代1万年のムラの移り変わりがわかった

縄文人は暖かくなったり寒くなったりする気候の変化や火山ふん火といった自然との関わりにあわせて、ムラの形や大きさを工夫して暮らしていました。



青森県三内丸山遺跡 縄文時代中期



秋田県大湯環状列石 縄文時代後期

人が集まって大きなムラがつくられた約5,000年前の縄文社会(左)と、小さなムラに分かれて暮らし、共同で環状列石をつくる約4,000年前の縄文社会(右)

縄文遺跡群の17の遺跡

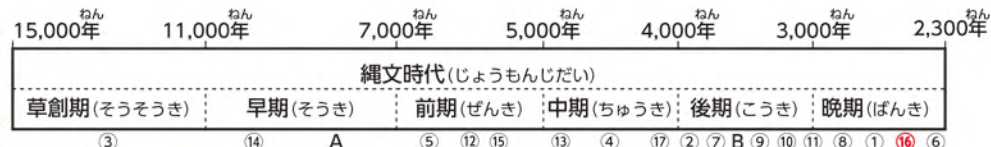


もっと知りたい人は
コチラもみてらん!

縄文キッズ



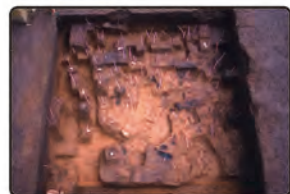
遺跡の年代



① 高砂貝塚



② 入江貝塚



③ 大平山元遺跡



④ 三内丸山遺跡



⑤ 田小屋野貝塚



⑥ 亀ヶ岡石器時代遺跡



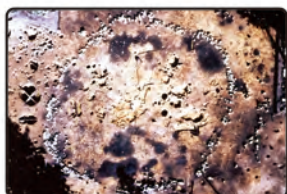
⑦ 小牧野遺跡



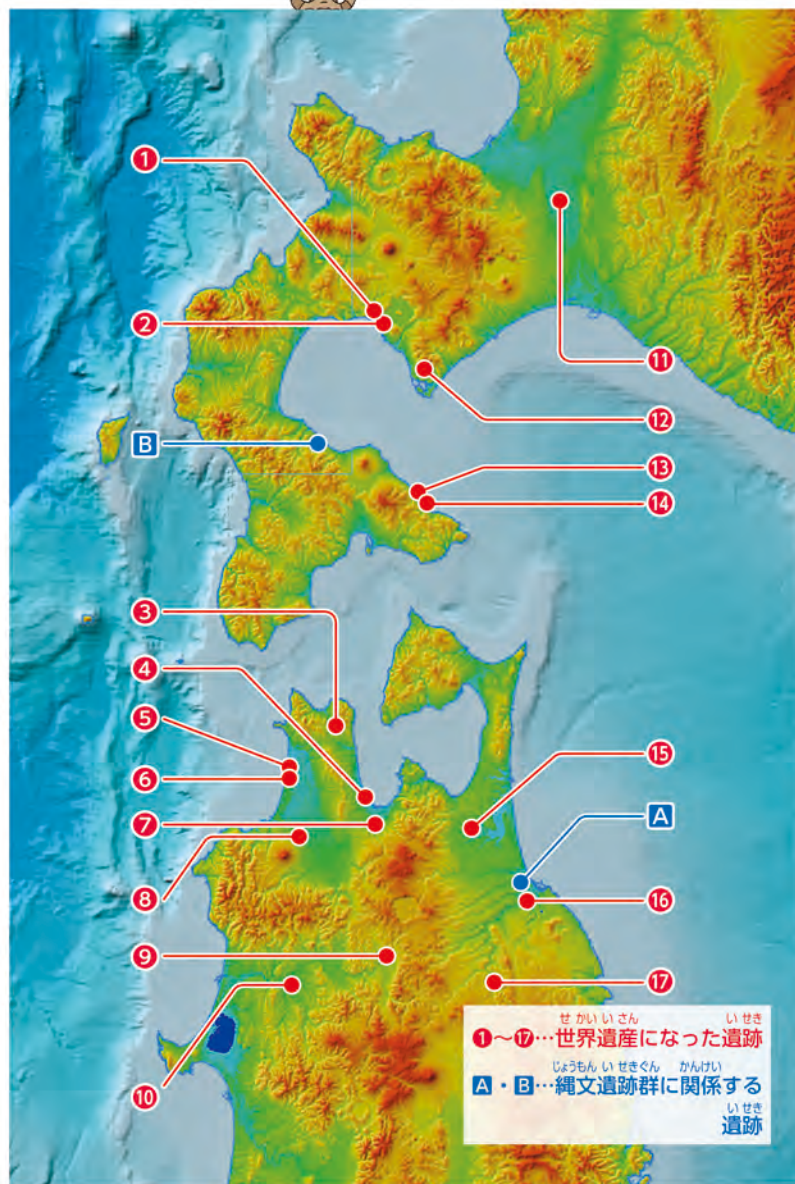
⑧ 大森勝山遺跡



⑨ 大湯環状列石



⑩ 伊勢堂岱遺跡



※ストーンサークルや周堤墓(大きな土手のあるお墓)のほかは、復元した建物であり、遺跡は大切に地

下で保存されています。



⑪ キウス周堤墓



⑫ 北黄金貝塚



⑬ 大船遺跡



⑭ 垣ノ島遺跡



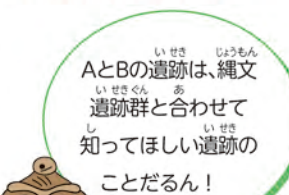
⑮ ニツ森貝塚



⑯ 是川石器時代遺跡



⑰ 御所野遺跡



⑱ 鷺ノ木遺跡



⑲ 長七谷地貝塚
(約8,000年前の数少ない貝塚)



⑳ 鷺ノ木遺跡
(北海道の数少ないストーンサークル)



AとBの遺跡は、縄文遺跡群と合わせて知ってほしい遺跡のことだるん!

知ってる？縄文時代!!

今から約15,000年前から2,300年前まで続いた縄文時代は、どのようなものだったのでしょうか？

縄文時代のすごいところをみてみましょう。

ここがすごいぞ！縄文その1 土器を発明した！

土器を使うようになって、動物や植物をにやわらかくしたり、毒をぬいたりできるようになり、食べられるものがたくさん増えました。土器は持ち運びが難しく、移動する生活に向かないため、土器の発明は場所を決めて暮らすムラのはじまりを示しています。

土器の使用が縄文時代のはじまりとも考えられています。



▲縄文時代のはじまりの約15,000年前につくられた土器のかけら
(青森県大平山元遺跡 縄文時代草創期)

ここがすごいぞ！縄文その2 縄文人のネットワークは広い！



▲三内丸山遺跡で見つかった
北海道の黒曜石でつくられた石槍(左)
北陸のヒスイでつくられた大珠(右)
(青森県三内丸山遺跡 縄文時代中期)

縄文人は、黒曜石やヒスイなどの身のまわりでは手に入らない貴重品を遠い地域との交流によって手に入れていました。

縄文時代には日本列島全体にムラからムラ、遠いところには丸木ぶねでわたる、海で結ばれた広いネットワークがあったのです。

ここがすごいぞ！縄文その3 土偶が1万年以上つくられた！

土偶は、縄文時代を通して1万年以上つくられ続けたねん土の人形です。

その多くは出産する女性のような姿につくられていることから、大切な命に対する縄文人のいのりがこめられていると考えられます。



▲土偶のいろいろ
(上)秋田県伊勢堂岱遺跡 縄文時代後期
(左)青森県中居遺跡 縄文時代晩期

ここがすごいぞ！縄文その4 広さは日本列島全体！



縄文人が生み出した道具や暮らしは、今の北海道から沖縄まで広がっていました。

南北に長い日本列島は、四季や気候にちがいがあがり、各地で暮らす縄文人のムラのつくり方や道具に個性が表れます。

▲縄文時代晩期のころの日本列島

※色のちがいは、各地でみつける土器などに個性のちがいがああることを示します。

ここがすごいぞ！縄文その5 戦がない助けあいの社会だった！

縄文人の骨には争って傷ついたあとがほとんどなく、戦はなかったと考えられます。また、子どものころに重い病気にかかりながら大人まで成長した骨が出土していることから、助けあって暮らしていたと考えられます。



▲子どものころに体がやせて力がなくなる病気にかかった縄文人の墓
(北海道入江貝塚 縄文時代後期)

01

これかわせつきじだい いせき

是川石器時代遺跡とは？

是川石器時代遺跡は、一王寺遺跡・堀田遺跡・中居遺跡の3つ

からなります。

縄文時代の是川には、現在の新井田川のほかにいくつかの川が流れていて、豊かな自然が広がっていたようです。

約12,000年前にはすでに縄文人が活動していて、やがて人が集まり、ムラができました。

こくほうがつしうどくう これかわせつきじだい いせきちか
国宝合掌土偶は是川石器時代遺跡近くの風張(1)遺跡で見つかったん！



▲ 空から見た是川石器時代遺跡



なんで石器時代遺跡という名前なん？

「是川石器時代遺跡」の名前は、国が重要な遺跡として保護する「史跡」になった時につけられたものです。

史跡になった1957年ころまでは、「縄文時代」ではなく、「石器時代」という時代区分を使っていた。「石器時代」がつく縄文遺跡は、全国で16か所あります。



▲ 是川石器時代遺跡とそのまわりの遺跡
(水色の部分はむかし川だった場所)

02

じょうもん じ だい お

縄文時代終わりごろの中居遺跡が世界遺産に！

中居遺跡は、今から約3,000年前から2,300年前の縄文時代の晩期に営まれたムラの全体がわかる数少ない遺跡です。

晩期のころは日本各地で人口が少なかったと考えられています。中居遺跡のなかには小さなムラがつくられていました。120をこえるたくさんの墓やマツリのあるため、まわりのムラから人が集まる地域の中心のようなムラであつたと考えられます。



たてあなたてもの
竪穴建物

※地面を円形にほってつくられていました。



はい せき
配石

※ムラの中心につくられた石組み。石組みのまん中では、高さ1mの石が立てられていたようです。



はか
お墓

※地面をほってつくった墓で、縄文人の骨が見つかっています。



みづ ば
水場

※小川をせきとめるようにつくられた水辺の作業場。

▲ 中居遺跡で見つかった縄文時代晩期のムラ

03

是川縄文人のつくったものは 美術品のよう!



●土偶

マツリなどに使われたと考えられます。目が大きくつくられ、頭や体にきれいなかざりや文様がつけられています。



●耳かざり

ねん土でつくられ、きれいな文様がつけられています。

●土器

整った形やきれいなデザイン、ピカピカの表面のつやだしが特ちょうです。



八戸は北東北のなかで早くから縄文人がムラをつくり、道具を発達させた地域です。
是川で見られる美しい土器や土偶などは、北海道から沖縄まで見つかっています。

04

是川縄文人は今につながる うるしの文化をもっていた!

是川縄文人は、うるしの木を育てて樹液をとり、いろいろな道具を赤色や黒色にぬっていました。
うるしは、編みかごや土器に重ねてぬってきれいに仕上げしており、縄文人は今のうるし工芸と変わらない方法を知っていたことがわかります。

●かざり太刀

刀のような形で、マツリなどで使われたつえと考えられます。是川石器時代遺跡だけの貴重品です。



●土器

うるしがぬられたものは少ないので、マツリなどの特別な場面で使われていたと考えられます。



●うるしこしの布

うるしの木からとった樹液のごみとりに使われました。

●くし

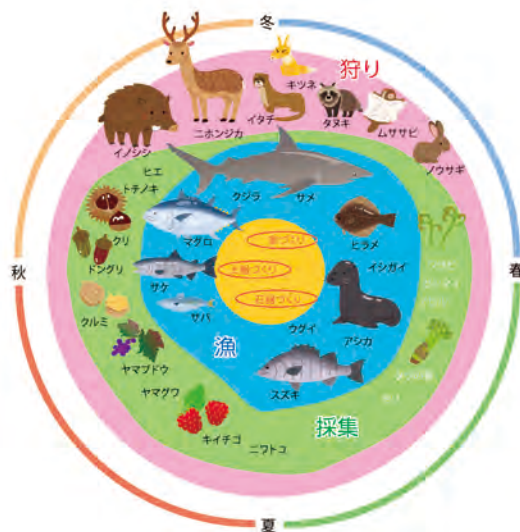
マツリなどの特別な場面で、かみかざりとして使われていたと考えられます。



なか い く
中居ムウの暮らし

なか い じょうもん じん お がわ
中居ムラの縄文人は、小川にかこ
ま ぼ しょ やま かわ
まれた場所にムラをつくり、山・川・
うみ い やく ねん かん
海のみぐみを活かして約700年間
せい かつ
生活していました。

ムラのまわりでは、木の実がなる
クリやクルミ、トチノキの林のほか、
ヤマブドウやニワトコなどの
色々な植物を育て、食料や木材にして
いました。また、山あいではイノ
シシやシカ、川ではウグイやサケを
とり、海に出かけてマグロやスズキ
のほか、クジラやサメも手に入れて
いました。



なか い じゅうもんじん て い どうぶつ しょくぶつ

▲中居ムラの縄文人が手に入れた動物や植物

(ばくしやく に い き しょうど り かんご)

白色の字は、遺跡から出土していないもので、
当時使われていたと考えられているもの。



▲ ^{なか い}中居 ^くムラの ^{そうそう ず}暮らしの想像図

是川石器時代遺跡と泉山兄弟

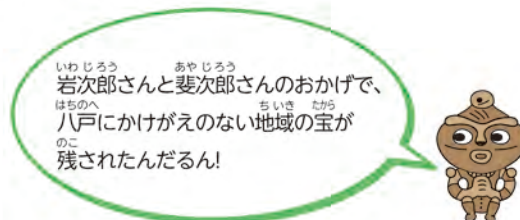
是川石器時代遺跡は泉山岩次郎、斐次郎兄弟によって守られました。

二人は遺跡を見つけ、発掘し、世界に知られるきっかけをつくりました。なにより大事なことは、出土品の保存にとても努力されたことです。

ふたり やく でん しゅつ と ひん
二人のおかげで約5,000点の出土品が
これかわ のこ
是川に残ったのです。



▲発掘で見つかった土器などのようす



兄の岩次郎さん



おとうと あやじろう
弟の斐次郎さん

是川石器時代遺跡のこれから

是川石器時代遺跡が八戸の宝から世界の宝になりました。

これから遺跡のすばらしさを世界中に伝え、遺跡をずっと守っていくことがとても大切です。遺跡では、今、当時の縄文人の暮らしや風景を再現する取り組みが進められています。

自然を上手に利用し、長い間、助け合う暮らしが続いた縄文遺跡群の持ちようは、世界でもほかにありません。みんなで世界遺産になった是川石器時代遺跡を守り、未来に伝えていきましょう。



▲^{これかわせつ}是^き川^じ石^{だい}器^い時^{せき}代^{なが}遺^い跡^い(^{せい}中^{げん}居^{さい}遺^{げん}跡)の再現イメージ

(当時の竪穴建物やマツリ場のほか、流れていた小川や水辺の作業場も再現する計画です。)

- 写真提供：JOMON ARCHIVES、青森県・函館市・伊達市・千歳市・洞爺湖町・森町・青森市・弘前市・つがる市・外ヶ浜町・七戸町・一戸町・
鹿角市・北枝田市の教育委員会、三内丸山遺跡センター ※P6-7の地図は[地理院タイル色別標高図]を加工して掲載
●協力者：鈴木 規夫氏（八戸市小学校社会科教育研究会 会長）
●想像図作画：安芸 早穂子氏

しょうがっこう
小学校

ねん
年

くみ組

なまえ

はちのへはっけん
八戸発見ブック

世界遺産になった！ 是川石器時代遺跡

発行日：令和4年3月8日

編集・発行：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

デザイン・印刷：新光印刷株式会社

▼もっと知りたい人はコチラ！



是川繩文館



縄文キッズ



繩文遺跡群